

重点目標 (めざす)	具体的方策	主担当	評価指標	＜評価の根拠＞ 達成度判断基準	教職員アンケート	児童アンケート	保護者アンケート	取組状況	評価	学校運営協議 会の意見	今後の改善点と具体的方策
1 組織的な 学校運営	①【いじめ・不登校等の未然防止】 いじめ問題等記録シート、別室登校児童対応の報告と共有で組織的対応を行う。	教頭	【努力指標】 いじめ等記録シートで報告し学年で情報を共有した。 【満足度指標】 ひだまり教室の設置で不登校傾向の児童が安心して登校できるようになったと感じる。	＜実施状況・アンケートの状況＞ A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	いじめ等記録シートで報告し学年で情報を共有した。 A74.1%、B22.2%、C3.7% ひだまり教室の設置で不登校傾向の児童が安心して登校できるようになったと感じる A70.4%、B25.9%、C3.7%	学校生活は楽しい。 A51.8%、B37.1% C9.8%、D1.3%	お子さんは学校生活を楽しくしている。 A41.5%、B50.9% C7%、D0.6%	学級担任とひだまり教室間の情報共有、学年内での情報共有はできていた。しかし、前期後期とも学校が楽しくないと感じている児童は依然としている。	A	体制としてはこれでよいと思う。引き続きやってみよう。学校が楽しくないと感じている児童は、どうしてそう思っているのかを担任が家庭と情報共有しながら把握し、少ない人数でも大事にしていこう。それが、担任が児童をみる力をつけることにつながる。	日々の授業の中で、児童一人一人が前の自分より成長を目指し、実感するふり返りを生徒指導、学習指導と連携して推進し、児童の自己肯定感を高めていく。
	②【放課後業務の時間確保と学年で情報共有の充実】 日課の短縮と会議を入れない日の設定、PTA各種お知らせと学級便りの電子化で放課後業務の時間確保と学年で情報共有の充実を図る。	教頭	【満足度指標・努力指標】 放課後業務の時間が確保されたと感じる。 学年間で毎日情報共有をしている。	＜実施状況・教職員アンケート＞ A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	放課後業務の時間が確保されたと感じる。 A11.5%、B50% C23.1%、D15.4% 学年間で毎日情報共有をしている。 A59.3%、B33.3% C3.7%、D3.7%	多忙と感じている教員が増えている。また、特別支援学級担任と学年間で情報共有が定期的になされていない。			B	学年会メンバーが全員集まって話し合いができるよう、学年会を開く場所を割り当てる。また、学年会の内容確認と助言ができるよう、事前に学年主任から管理職と主幹に学年会で話し合う内容を報告してもらう。また、授業カットを積極的にいり業務時間を確保する。	
2 知（自分の 考えを伝える子）	①【探求サイクルのある総合学習の単元デザイン】 総合学習を中心に、探求プロセスを意識して課題解決するよさを実感させる授業を研究授業を核に探っていく。	研究	【満足度指標】 総合・生活科を中心に「授業に主体的に取り組んでいる」「学ぶことが楽しい」と感じている児童の割合	(教・児アンケート) A: 90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	総合・生活科を中心に、子どもたちは主体的に取り組んでいると思う(研究アンケート教職員)。 A56.5%、B17.4% C17.4%、D8.7%	総合・生活科の授業が楽しい。 A61.4%、B29.1% C7.4%、D1.1%	子どもは家庭学習に主体的に取り組んでいると思う。 A19.5%、B57.9% C19.8%、D2.7%	児童に任せられる部分は全校で確実に増えている。あとは単元で見ると大きな捉えを広くしていくこと、つけるべき力は徹底してつけていくという単元構想が必要	B	他校のように、同じ本で児童同士が感想等を共有できるとよい。そのために、例えば、同じ絵本や本を10冊ずつ購入し学級へ回す。学級で児童が本を読んだ感想を交流する際、本校児童が意識している3つの接続詞を使って話し合う。10冊ずつ購入した本は学級間で回した後は、市内学校間で順に回せば、購入した本も有効活用できるのでは。	引き続き児童が主役の理念の下、各学年での実践を共有し、全校教員の授業デザイン力を継続して高めていくことが必要。高橋先生直通チャットでの実践報告を行う。
	③【3つの接続詞を用いて思い考えのやりとりのある授業づくり】 ・学び合いの中や振り返りの際に、3つの接続詞を用いることで学びを深める。 ・ICT端末を活用して、対話の量を増やす。	主幹	【成果指標】 3つの接続詞を用いて学習のふりかえりをすることができている児童の割合	単元末におけるふりかえり3つの接続詞を用いて書いている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	3つの接続詞を用いてふりかえりを書かせたことで、子どもたちが論理的に考え、伝える力がついていると思う。 A12%、B76%、C4%、D8%	3つの接続詞をつかって自分の考えをあらわすようになった。 A36.8%、B41.2% C17.9%、D4.1%	子どもは、自分の考えをつながりをもって表すようになった。 A24.1%、B59.5% C16.2%、D0.3%	児童評価のA+Bの割合に大きな変化はないものの、教職員評価では24ポイントのプラスとなった。教職員の中で認識、取組の共通化が図られてきた結果と捉える。	C	金曜日ははくいを「書トレ」に一本化し、R80に取り組み。学級制限と接続詞使用に制限をかけた中での書く経験を積み、日々の学習のふりかえりを書く活動につなげていく。	
	【読書の楽しさの実感】 ・図書委員会で図書室に行きたくなるようなイベントを企画し、読書を楽しむ機会を増やす。 ・*担任と司書が連携し、授業と関連した図書を活用や家庭での読書を勧め、楽しい本に出会わせる。	図書	【満足度指標】 本を読むことが楽しいと感じる。	(教・児・保アンケート) A: 90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	授業等で積極的に図書室を活用して読書をするようになった。 A36%、B40% C24%	本を読むことが楽しいと思う。 A43.7%、B33.1% C16.5%、D6.7%	家庭では、お子さんが読書ができるように配慮している。 A14.9%、B47.3% C31.7%、D6.1%	図書委員会が主体となり、全員が参加しやすく様々なジャンルの本に親しめるようなイベントを企画した。週に1回、図書の時間を確保してあるものの、利用する学級には差が見られた。	B	週に1回、全員が必ず本を借りる時間を設ける。国語科において、並行読書だけでなく言語活動の中で図書を活用する単元を、学期に1回は設ける。それにより、本に触れる機会を増やした。	
3 徳（よさを 見つける子）	①【生徒指導の4つの視点】 生徒指導の4つの視点を意識して教育活動を行うように自身で重点目標を定め、月1回チェックシートを用いて検証を行う。	生徒指導	【努力指標】 チェックシートで3つの項目中2つは肯定的評価がつく。 【成果指標】 魅力ある学校づくりアンケートでの「学校が楽しい」に当てはまると答える児童の割合。	＜教師アンケート・実施の状況＞ +評価 A: ~90% B: ~80% C: ~70% D: 70%未満 ＜児童アンケート＞ A: +評価90%～ B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満	チェックシートで3つの項目中2つは肯定的評価がつく。 A40.7%、B48.1%、 C7.4%、D3.7%	学校生活は楽しい(生徒指導魅力アンケートより)。 A52.9%、B38.2% C6.6%、D2.3%	・月末に次月の重点目標を定め、その月の取組についてチェックシートを用いて検証を行った。 ・別室登校児童対応教員が経験者数の少ない教員の授業参観を行い、生徒指導の4つの視点に沿って助言を行った。	B	先生方同士、お互いの参観をしているところが良い。子ども「この先生の教え方が分かりやすい」といった部分を共有し、その共有した教え方をさらに先生方同士でも共有してはどうか。そうすれば、授業がよくわかる児童も増えるのではないか。	県大会に向けて各部会で授業参観をしたもの生徒指導の4つの視点の意識が弱くなったことが要因。3学期は、授業参観の在り方を研究主任と相談し、生徒指導の4つの視点を意識して教育活動を行うようにしていく。	
	②【魅力ある学校づくり】 各教科で学びのサイクルを回し、児童と共通理解した「わかる」を積み重ねていくことで、自己達成感・自己有能感・自己有用感を感じさせていく。	生徒指導	【成果指標】 魅力ある学校づくりアンケートでの「授業がよくわかる」に当てはまると答える児童の割合。	(教・児アンケート) 当てはまる A: ~60% B: ~50% C: ~45% D: 45%未満	各学年で目指す「よくわかる」を児童と共有し、学びのサイクルを意識した授業を行っている。 A24%、B56% C12%、D8%	授業がよくわかる(生徒指導魅力アンケートより)。 A49%、B42.9% C7%、D1.1%	ここでの分かるは、テストで100点をとれる「わかる」ではなく、教師と児童が共有した「わかる」なので、保護者アンケートでは、測れない	・1学期のアンケート結果を受け、2学期は児童と分かる」を共有し、各学年で授業を行った。 ・自由進度学習を取り入れ、子どもたちの個別最適な指導を心がけた。	B	自由進度学習により、学級の「自分」が学習を進めるから「自分」が学習を進めるに変わったことが、「よくわかる」の減少の要因と考えられる。アンケート結果を確認し、教師が、児童の学習にどのように伴走し、支援していくかを3学期の学習に向けて考えていく。	
4 体（自分の 命を自分で 守る子）	①【感染症対策、熱中症予防】 手洗いのポスターや熱中症指数の掲示を見て、自分の命や健康を守るための行動を取ることができるようにする。	保健主事	【成果指標】 新型コロナウイルス感染症や熱中症を予防するための正しい行動を自分で考えてできている。	(教・児・保アンケート) +評価 A: ~85% B: ~75% C: ~65% D: 65%未満	新型コロナウイルス感染症や熱中症を予防するための行動を自分で考えてできている。 A44.4%、B51.9% C3.7%	新型コロナウイルス感染症や熱中症を予防する人に支えられている。 A47%、B41.7% C9.6%、D1.3%	学校は、校外の安全指導に努め、事故防止に配慮している。 A27.1%、B68% C3%、D4.9%	感染症を予防するために手洗いの取り組みを行った。各クラスでこの目標を立てて取り組んでいる。また、インフルエンザが校内で流行した際、保健委員会の取り組みで換気チェックも行った。 熱中症予防については、熱中症指数の掲示を見て、児童自らが指示を見て命を守るための判断と行動ができるようになった。	A	感染症予防は児童の方が大人より理解している。食育も中間評価を受けて改善している。体力アップの指導がより行いやすいように、指導用のイラスト(電子黒板用)と7分程度の指導案を作成し、職員全体で取り組んだ。	コロナ対策のために手洗いの目標を各学級で決めていくことを3学期も継続して行っていく。ウイルスがなくなったわけではないということ意識して生活できるようにする。インフルエンザが流行しているため、手洗いや換気の声かけも行っていく。
	②【食育を通じた望ましい食習慣の形成】 学校給食を活用した給食時間における食に関する指導の推進する。	保健主事	【成果指標】 学級配布資料を活用し、毎月の給食目標などについて指導している。	(教・児アンケート) +評価 A: ~85% B: ~75% C: ~65% D: 65%未満	学級配布資料(ばくばくど)を活用し、給食目標などについて指導を行っている。 A52%、B36% C4%、D8%	給食目標を意識している。 A49.9%、B35.8%、 C11.3% D2.4%		前期の評価を受け、各学級における給食目標の指導がより行いやすいように、指導用のイラスト(電子黒板用)と7分程度の指導案を作成し、職員全体で取り組んだ。	A	給食目標を意識する児童が着実に増えてきていることから、今後も校内放送や月末の聞き取り等を継続して行っていく。	
	③【体力アップ1校1プラン】 ゲーム要素を加えた運動を授業の始め等に行い、細かい動きができるようにする場を設定したり、段階的指導を行ったりしていく。	保健主事	【努力指標】 提案された予備運動や段階的指導を行った教師の割合。	(教・児アンケート) +評価 A: ~85% B: ~75% C: ~65% D: 65%未満	児童自らが体力・技能の向上やけが防止について判断できるよう、各種目・領域の段階的指導や予備運動を行っている。 A31.8%、B63.6% D4.5%	体育の授業は楽しい。 A63.7%、B26.2% C7.2%、D2.9%		ゲーム要素を加えた運動を授業の最初に行えるようにした。段階的指導を行えるように二回練習を開き、指導法を共有した。	A	児童、職員が技能の向上や怪我の防止ができるように段階的指導を単元に含ませて共有し、授業に活かしていくことができるようにしていく。ゲーム要素を加えた運動やスポーツの取り組みを授業の始めに行っていくことを継続していく。	
5 家庭・地域との 連携協働	①【学校運営協議会の充実】 読書活動とふるさと学習の推進、学習サポート等、学校運営方針に沿って地域ができることを協議し、実行していく。	教頭	【努力指標】 学校は、地域や保護者の力を積極的にいかして教育活動を行っている。	＜保・教アンケート＞ A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	読書ボランティアの読み聞かせ・学習サポート等、学校は、地域や保護者の力を積極的にいかして教育活動を行っている。 A85.2%、B14.8%	見守り隊や読み聞かせ、学校の勉強のお手伝いなど、自分は地域の人に支えられていると感じる。 A60.7%、B31.6% C6.3%、D1.5%	読書ボランティアの読み聞かせ・学習サポート等、学校は、地域や保護者の力を積極的にいかして教育活動を行っている。 A33.2%、B61.9% C4.6%、D0.3%	学習サポートが担当教員や担当学年の大きな手助けとなった。しかし、計算サポートでは、児童数に対し、都合により日によってサポートして下さる方の人数にばらつきがあり、充実したサポートができない時もあった。	A	ホームページでも学校の様子がわかるようサポートが充実しているが、そのことを保護者が知らないためか、保護者の評価が低い。クローズドブックを児童が見せてくれない、児童がクローズドブックを開けないと情報がわからないことには確かにある。保護者に学校の様子の情報提供のありかを知ることができるとよい。	保護者の方もより多く参加してもらえよう、コード年度の募集の他、年度初めの学級懇談等でサポートが必要なお知らせを事前に知らせようとする。また、CSダイヤルと連携し、学習サポートの組織化を図っていく。
	②【開かれた学校づくり】 学校教育活動を家庭や地域に積極的に発信し、開かれた学校づくりに努める。	教頭	【満足度指標】 ホームページやコードモン、クローズドブックを使って、教育方針や学校教育活動などをよく保護者に伝えている。	＜保・教アンケート＞ A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学校は、ホームページやコードモン、クローズドブックを使って、教育方針や学校教育活動などをよく保護者に伝えている。 A77.6%、B22.2%	学校は、ホームページやコードモン、クローズドブックを使って、学校のことをよく保護者に伝えている。 A34.8%、B60.4% C4.6%、D0.3%	学校は、ホームページやコードモン、クローズドブックを使って、学校のことをよく保護者に伝えている。 A34.8%、B60.4% C4.6%、D0.3%	学級の活動の様子等は、担任がクローズドブックのクラスルームに写真等をアップして知らせた。しかし、夜9時以降は開けない設定のため、夜帰ってきたときも見ることもできない保護者もいた。また、アップした学級より保護者に見せない児童もいた。	A	クローズドブックは市から貸与の学習用具であること、学級の様子を保護者に知らせる大切な道具であり、お知らせは保護者にみせる必要があることを再度児童に理解させ指導する。	